

世界から舞台芸術の
<現在>が集う。
京都初の国際舞台芸術
フェスティバル。

KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭2010

10月28日(木)——11月23日(火)
●公演情報の詳細は▶P.5—6

KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭2010とは?

京都に新しい舞台芸術フェスティバル「KYOTO EXPERIMENT(キヨト・エクスペリメント)」が誕生します。

「KYOTO EXPERIMENT」では、国内のみならず世界各国から最先端の作品を紹介し、さらに、ここに集う人々の交流によって、次代を切り拓く新たなヴィジョンが創造されるための開かれた場を目指しています。京都は国際的な歴史都市であると同時に、多くのアーティスト・研究者・技術者たちが日々研鑽を重ねる、創造的なポテンシャルに溢れた都市です。そんな京都を舞台に展開するフェスティバルで、知覚を揺さぶるような体験と出会い、<現在>が更新されるその瞬間を目撃して下さい。京都芸術劇場では11月に3演目を開催いたします。

●公式プログラム

松田正隆／マレピの会
『HIROSHIMA-HAPCHEON:
二つの都市をめぐる展覧会』

10月28日(木)——31日(日)
京都芸術センター 講堂

三浦基／地図『一ところでアルトーさん』
11月3日(水)——7日(日)
京都芸術センター フリースペース

ジゼル・ヴィエンヌ
『こうしておまえは消え去る』
11月6日(土), 7日(日)
京都芸術劇場 春秋座

戸井昭人／鉄割アルバトロスケット
『鉄割のアルバトロスが』 京都編
11月11日(木)——14日(日)
アートコンプレックス1928

ピチエ・クランчен
『About Khon』 11月12日(金)——14日(日)
京都芸術劇場 studio21

高山明／Port B『個室都市 京都』
11月12日(金)——21日(日) 京都駅ビル

味方玄／京都芸術センター
『待月(つきまつ)』 原作: 松田正隆
11月16日(火) 大江能楽堂

岡田利規／チエルフィッシュ
『ホットベッパー、クーラー、
そしてお別れの挨拶』
11月19日(金)——23日(火)
アートコンプレックス1928

渡邊守章／
京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター
マルグリット・デュラス作
『アガタ』——ダンスの臨界／語りの臨界——
11月20日(土), 21日(日)
京都芸術劇場 春秋座 舞台上

フェデリコ・レオン『未来のわたし』
11月21日(日)——23日(火)
京都芸術センター 講堂

●パフォーマンス 春秋座

11月6日(土) 19:00開演 7日(日) 14:00開演 ※ポスト・パフォーマンス・トークあり

ジゼル・ヴィエンヌ(グルノーブル) 『こうしておまえは消え去る』

新作／関西初演 日本語字幕あり



Photo: Seldon Hunt

霧の影刻の中谷美二子、ダムタイプの高谷史郎、米国人作家のデニス・クーパーとミュージシャンのスティーヴン・オマリー、ピーター・レーバーグなど、日本をはじめ各国から多ジャンルのアーティストが参加する注目の国際共同製作作品。2010年夏、アヴィニョン演劇祭で初演され絶賛を受けた本作が、かつてジゼル・ヴィエンヌがレジデンス・アーティストとして滞在した京都に、ついに登場します。

●3公演とも日曜日は託児サービス有り

有料: 2000円・要事前予約 予約お申込みは公演日の7日前まで。

■託児サービス 予約・お問い合わせ

KYOTO EXPERIMENT事務局 TEL. 075-213-5839(11:00—20:00)



主催:
KYOTO EXPERIMENT
京都国際舞台芸術祭
(京都・財団法人京都市芸術文化協会、京都芸術センター、
京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター、NPO法人京都アーツミーティング)
<http://www.kyoto-ex.jp>

●ダンス studio21

11月12日(金) 19:00開演 13日(土) 14:00開演 ※ポスト・パフォーマンス・トークあり
14日(日) 16:00開演

ピチエ・クランчен ダンスカンパニー(バンコク) 『About Khon』

日本初演 日本語同時通訳あり

昨年、京都造形芸術大学が開催した「世界アーティストサミット」に参加した、タイの伝統舞踊(Khonコーン)の名手、ピチエ・クランчен。フランスの振付家ジェローム・ベルと創作した『ピチエ・クランченと私』(2005年)は、フランスとタイにおける演劇と振付の伝統について、疑問を提起しました。つづく『I am a Demon』(2006年)では、「コーン」における悪魔のキャラクターの仕組みと、ムーブメントの背後にいる知性への探究を行い、これらの作品から生じた探究が、『About Khon』(2007年)へ織り込まれ、議論を発展させました。



©Hong Kong Cultural Center

●ダンス 春秋座 舞台上

特集は▶P.3へ、公演情報の詳細は▶P.6へ

11月20日(土) 14:00 ※ポスト・パフォーマンス・トークあり／19:00
21日(日) 14:00 ※ポスト・パフォーマンス・トークあり

マルグリット・デュラス作 『アガタ』——ダンスの臨界／語りの臨界——

新作／世界初演

訳・構成・選曲・演出・語り: 渡邊守章 振付・出演: 白井剛、寺田みさこ

11月20日(土)・21日(日)

●公演情報の詳細は▶P.5

マルグリット・デュラス作

『アガタ』——ダンスの臨界／語りの臨界——

●白井剛



振付家・ダンサー

『思い出は、思い出を担っているわたし達よりも強い…』と最後にアガタが言う。わたしが過去のなにかを思い出すというのではなく、それよりも圧倒的ななにかが、そこに!ある。すでに過ぎ去ったはずの出来事が、圧倒的な力で、いまもそこにある!そして、デュラスはおそらく言うのだ、「そのようなものこそが真正の『愛』なのだ」と。

*

渡邊守章先生が「アガタ」を演出するという。しかもダンスと語りの言葉とがぶつかり合う——世界初!だろう——独創的な、画期的なスタイルに挑戦するときいた。だが、よく考えてみると、このスタイル、まっすぐから「アガタ」という作品の核心を突いた恐るべき〈正解〉)ということが解ってくる。

振付家としてもダンサーとしても、少年期の花を「真の花」へと変容させる類まれな身体として注目してきた白井剛と、アカデミック・ダンスの優美とコンテンポラリー・ダンスの狂気とを、二つながらに生きる舞台によって、見る者を惹きつけてやまない寺田みさこ。演出家が「語り」を受けもち、この二人のダンサーと行う初めてのコラボレーション。

*

デュラスは愛の作家だ。だが、愛する者をかならずや人間存在の限界にまで連れ出してしまうような危険な、恐怖にみちた、不可能な愛の作家である。84年の小説『愛人(ラマン)』でみずからインドシナの幼年時代の愛を語って世界的な成功を収めたが、その原型「アガタ」でとうとう近親相姦の愛の核心をつかみ出したことにあるのは確かだろう。

いや、近親相姦の愛は、自分には無縁のものだなどと言ってはならない。すべての愛は、それが真正のものならば、どこかで近親相姦の相貌を呈するのだから。不可能な思い出の奥にどんな美しい、白い、輝かしい肉体が横たわっているか、その肉体のダンスを見届けなければならない。

小林康夫: 哲学者・東京大学大学院教授

●寺田みさこ



振付家・ダンサー

1987年より石井アカデミー・ド・バレエに所属。91年より砂連尾理とユニットを結成。02年3月『第1回TORII AWARD』大賞受賞。7月「トヨタコレオグラフィーアワード2002」にて、「次代を担う振付家賞(グランプリ)」「オーディエンス賞」受賞。06年以降ソロ活動も開始し、山田せつ子、山下残、白井剛の振付作品などに出演。07年、初のソロダンス公演『愛音』をシアタートラム、びわ湖ホールにて上演する。

